

あなたとつながる、ふたば。

福島県双葉郡8町村



葛尾村
ツールド・かつらお

葛尾村
復興交流館あぜりあ

浪江町
福島水素エネルギー研究フィールド

浪江町・双葉町
復興祈念公園

大熊町
いちご植物工場

大熊町
大川原地区復興拠点

双葉町
東日本大震災 原子力災害 伝承館

富岡町
夜の森の桜

双葉町
産業交流センター

川内村
川内の郷かえるマラソン

富岡町
ふたば医療センター

富岡町
廃炉資料館

川内村
ぶどう栽培

檜葉町
みんなの交流館
ならはCANVAS

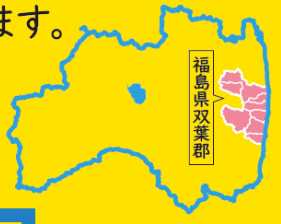
広野町
ふたば未来学園中学校・高等学校

広野町
トロピカルフルーツミュージアム

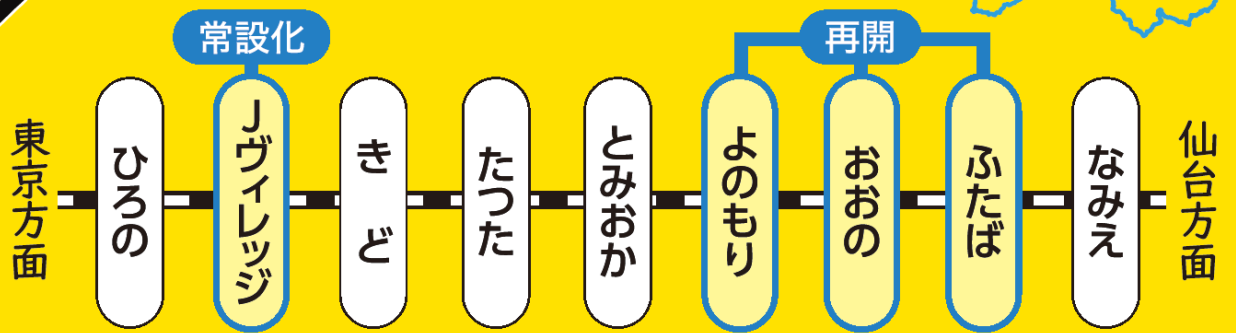
檜葉町・広野町
Jヴィレッジ

檜葉町
洋上風力発電

2020年3月、JR常磐線がはいよいよ全線再開します。
東京から、仙台から、あなたのまちから、
「双葉郡のいま」を感じる旅に出てみませんか？



2020年3月
JR常磐線
全線再開



あなたとつながる、ふたば。～イラスト解説～

<p>① 広野町 トロピカルフルーツミュージアム</p> <p>ニッ沼総合公園に隣接する温室では、町の新たな特産品として国産バナナの栽培に取り組んでいます。皮まで食べられるほどの徹底した管理のもとで栽培されているバナナの名前は「朝陽に輝く水平線がとて綺麗なみかんの丘のある町のバナナ」（愛称：「綺麗」）。強い香りと濃厚な味わいが特徴です。</p>	<p>⑩ 川内村 川内の郷かえるマラソン</p> <p>村の小学生の発案により、住民の帰還を願って、2016年の避難指示解除の年から毎年4月に開催されています。川内村の自然豊かなコースと、住民の温かなおもてなしで、県内外から多くのランナーを引きつけています。名前にちなみ、カエルのかぶりものを着けて走ることが定番の楽しい大会です。</p>
<p>② 広野町 ふたば未来学園中学校・高等学校</p> <p>震災後に休校を余儀なくされた双葉郡内の県立高校を集約する形で2015年に開校した福島県の教育復興のシンボルで、地域課題を探究する「未来創造型教育」が特色です。2019年には中学校も開校し、県立中高一貫校となりました。校内には生徒が運営する「C a f eふう」があり、生徒や地域住民の憩いの場になっています。</p>	<p>⑪ 大熊町 大川原地区復興拠点</p> <p>町内全域に避難指示が出された大熊町の先行復興ゾーンとして、2019年4月に町の南西部の大川原地区の避難指示が解除されました。新たな役場庁舎のほか復興公営住宅が整備され、帰町への道筋を開いています。現在も交流施設や商業施設、義務教育学校施設などの計画・整備が進められています。</p>
<p>③ 檜葉町・広野町 Jヴィレッジ</p> <p>東京ドーム約10個分の広大な敷地に、スタジアムを含め天然芝ピッチ8面、人工芝ピッチ2面、全天候型練習場、ホテルやフィットネスジムなどを備えた国内初のサッカーナショナルトレーニングセンターです。震災以降は福島第一原子力発電所の廃炉作業の拠点となっていました。2019年4月に全面再開し、復興のシンボルとして更なる利活用が期待されています。</p>	<p>⑫ 大熊町 いちご植物工場</p> <p>震災前は梨やキウイなどのフルーツ栽培が盛んだった大熊町の新たな産業として、2019年から大川原地区でいちごの周年栽培が始まりました。ずらりと並んだ巨大な農業用ハウスでは、最新のシステムで栽培工程が管理され、まさに「植物工場」と呼ぶべき近代的な景観です。</p>
<p>④ 檜葉町 洋上風力発電</p> <p>震災後に檜葉町沖約20kmに設置され、発電の実証実験が行われてきた浮体式洋上風力発電施設です。巨大な風車は、檜葉町天神岬スポーツ公園内の展望コーナーから望遠鏡で見る事ができるほか、晴れた日には広野町やいわき市久之浜の海岸からも肉眼で確認できます。 (※2021年度中に役目を終え撤去される予定です。)</p>	<p>⑬ 双葉町 東日本大震災・原子力災害伝承館</p> <p>震災と原子力災害の記録と記憶を後世に伝えるとともに、復興に向けた取組を発信するために福島県が整備した記憶伝承の拠点施設で、2020年9月に開館しました。県内各地から収集した震災・災害に関わる資料や映像、模型が展示されているほか、研修プログラムの提供や「語り部」による体験や教訓の伝承を行っています。</p>
<p>⑤ 檜葉町 みんなの交流館 ならはCANVAS</p> <p>災害公営住宅や商業施設を集約した檜葉町の復興拠点「笑ふるタウン」内に整備された交流施設で、木のぬくもりを感じる開放的な建物には、町民のワークショップから生まれたアイデアがふんだんに盛り込まれています。体験教室や作品の展示など様々な世代に活用され、町民のリビングになっています。</p>	<p>⑭ 双葉町 産業交流センター</p> <p>オフィスやレストラン、土産物店、貸会議室などを備えた多機能施設で、双葉町の中野地区復興産業拠点に2020年10月に開所しました。町民や就労者、来訪者に飲食や買い物などのサービスを提供し、にぎわいと交流を創出することで、町の復興のシンボルとなっています。</p>
<p>⑥ 富岡町 夜の森の桜</p> <p>約2kmに及ぶ桜並木が道路を覆うトンネルのように咲き誇り、「桜の名所」として知られています。原子力発電所事故により夜の森地区が帰還困難区域となり立入が制限されていましたが、2020年の夜ノ森駅周辺の避難指示解除で歩いて観望できる範囲が800mまで延びました。満開となる4月上旬にはライトアップや「桜まつり」が行われます。</p>	<p>⑮ 浪江町・双葉町 復興祈念公園</p> <p>広域にわたり甚大な被害をもたらした東日本大震災及び原子力発電所事故の犠牲者を悼む国営追悼・祈念施設(仮称)と、災害の脅威を伝え、教訓を学ぶことができる野外フィールドからなる公園です。⑬の伝承館、⑭の産業交流センターに隣接する双葉町と浪江町の両町にまたがるエリアに整備中で、2020年には見晴台など一部エリアの利用が開始されました。</p>
<p>⑦ 富岡町 廃炉資料館</p> <p>原子力事故の記憶と記録を残し、二度と事故を起こさないための反省と教訓を伝えるため、東京電力ホールディングス株式会社が設置した施設です。映像や模型で事故当時の様子を振り返るほか、現在進められている廃炉事業の全容と最新の現場の状況を知ることができます。</p>	<p>⑯ 浪江町 福島水素エネルギー研究フィールド</p> <p>2020年3月に開所した、再生可能エネルギー利用の世界最大級の水素製造装置を備えた水素工場で、クリーンで低コストな水素製造技術の確立を目指しています。製造された水素は、Jヴィレッジや道の駅なみえなどの一部電力供給に活用されているほか、燃料電池車にも使用され、水素社会実現のモデル創出が期待されています。</p>
<p>⑧ 富岡町 ふたば医療センター</p> <p>震災後、双葉郡での救急医療機関不在の状況を解消するため、2018年に県立「ふたば医療センター附属病院」を開院しました。地域の医療機関と連携して双葉郡の救急医療を担うほか、訪問診療や訪問看護を実施し、住民や復興事業者の方々の安心を医療面から支えています。</p>	<p>⑰ 葛尾村 復興交流館あぜりあ</p> <p>東日本大震災と原子力発電所事故による全村避難からの復興のシンボルとして、村の中心部に建設された交流施設です。村民の憩いの場であるだけでなく、村を訪れる人々への観光情報発信や物産品の展示・販売も行われ、様々なイベントの拠点としても活用されています。「あぜりあ」は村の花であるツツジの英語名です。</p>
<p>⑨ 川内村 ぶどう栽培</p> <p>阿武隈高原に広がる「高田島ヴィンヤード」で、地元産ぶどうを使用したワイン生産を目指し、醸造用ぶどうの栽培やワイン醸造施設の整備が進められています。一足先に生食用のハウスぶどうの生産・販売も始まっており、ぶどう栽培は川内村の農業を盛り上げ、牽引する新たな取組として期待されています。</p>	<p>⑱ 葛尾村 ツール・ド・かつらお</p> <p>周囲を里山に囲まれた葛尾村で2017年から開催されている自転車の公道レースです。この大会を機に、県内各地を転戦する「ツール・ド・ふくしま」が実現し、現在はそのステージの1つに位置付けられています。一周28kmという全国有数の距離とアップダウンがコースの魅力で、開催中の2日間は普段は静かな村が大いに盛り上がります。</p>

東日本大震災と原子力発電所事故からの復興が進む双葉郡内では、様々な施設や取組が生まれています。
復興の最先端の現場を見に来ませんか？

※福島県ふたば復興事務所のホームページやFacebookでは、双葉郡のさまざまな情報を発信しています。ぜひご覧ください。
⇒<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11110a/>